

請願書

請願事項

「希少種のヒメボタルが生息し続ける」ことができる相生山緑地計画を求めます。

理由

ここ相生山緑地は、東尾張丘陵地の一面を占め、名古屋市の東に位置する約130haの広さを有し、全域に希少種のヒメボタルが生息する特異な生態系に恵まれた森です。様々な生きものが複雑に関わりあい、命の宝庫となっています。

この相生山緑地は、都市開発から緑地を守る政策により都市計画緑地として位置づけられました。今では都市に残された貴重な大きなまとまりのある森となり、身近な自然として、市民に親しまれています。畑を耕す里山の風景が残り、子どもたちが雑木林に遊び、静けさ・木漏れ日・鳥たちのさえずりの中を多くの人が四季を通じて散策し、自然を享受しています。

5～6月の夜にはヒメボタルの乱舞が、広葉樹林、竹林、谷筋、雑草地など緑地のほぼ全域で見られ、ヒメボタルの生息地として全国的に知られています。ヒメボタルの生息には、森の植生・地形・土壌、そして暗さやまとまった広さなどの環境が影響するとされています。

生物多様性が脅かされている今、この相生山に関して名古屋市は「相生山緑地計画」を進めています。名古屋市の環境基本計画、みどりの基本計画などで、自然環境の重要性が謳われており、その具現化が課題となっていますが、オンリーワンとしてのこの相生山緑地から学ぶ姿勢で「計画する」ことが必要です。生きものたちの生息地の消失と劣化を招かないように、相生山緑地が分断されることなく、全体がひとつの大きな生態系を育む森として計画され、さらには、他の緑地との広域のネットワークをも視野に入れた緑地計画が求められています。

全域に生息するヒメボタルの自然環境の特性を調査・研究し、この緑地ならではの特性をつかみ、その環境を保全していく方法をベースにした緑地計画を進めて下さい。このことが、相生山緑地全体の生態系を保全することとなり、生物多様性につながります。生き物たちにとっては、多くの緑地が分断され減少していく中で、この相生山は、残された他の緑地を繋げる貴重な拠点として存在し、緑のネットワークをつくることによって、より豊かな自然環境となることでしょう。

2022年11月 日

名古屋市会議長 岩本たかひろ 様

請願者

相生山緑地を考える市民の会